

福山市神辺町所在

御領遺跡（第5次調査）

—遺跡見学会資料—

日時：平成24年6月16日（土）13:30～

主催：財団法人広島県教育事業団

福山市教育委員会

1 はじめに

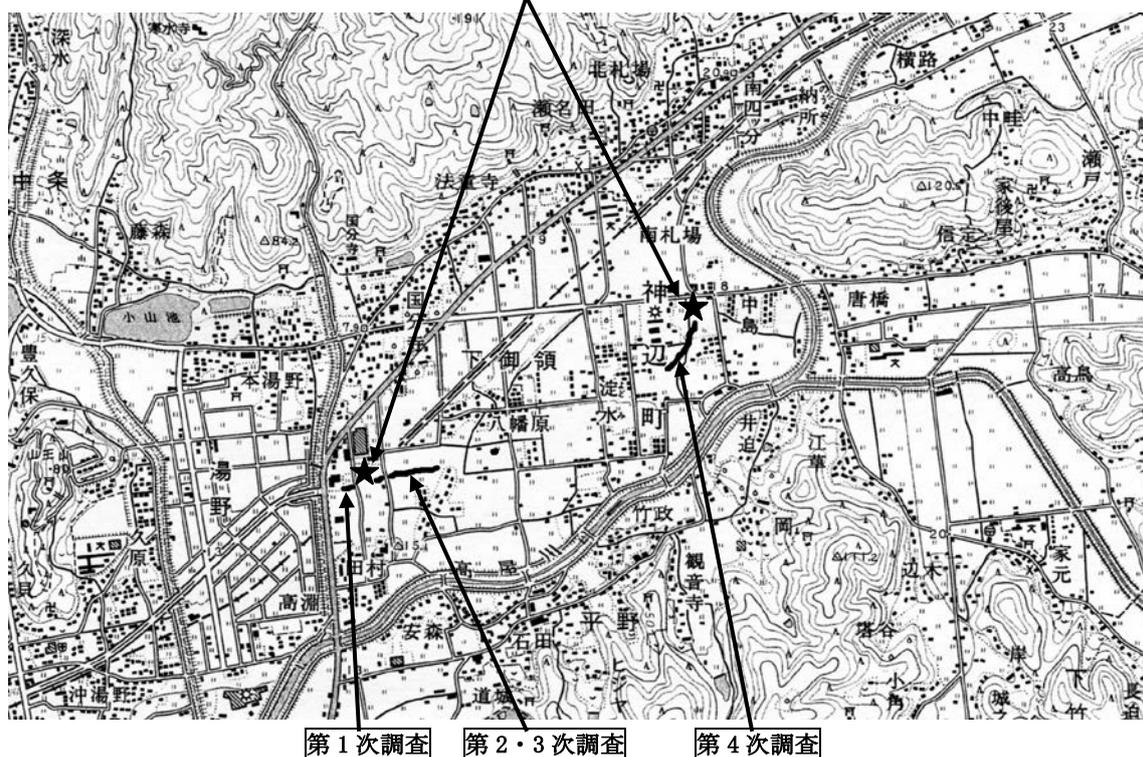
御領遺跡は、福山市神辺町の下御領から上御領にかけて、東西約1.6km、南北1.4kmの範囲に広がる県内でも屈指の面積を持つ縄文時代後期～中世にかけての遺跡です。遺跡の北には備後国分寺があり、古代では山陽道の通過地点にあたる場所でした。また、近世から近代さらに現代でも西国街道や国道・県道が交差する交通の要衝です。

周辺の遺跡としては西側に堂々川を挟んで大宮遺跡、さらに西側の平野中央部の独立丘陵上に亀山遺跡があります。また、平野の南北両側の山塊や尾根に古墳群が多数存在しています。

御領遺跡では、昭和53～54（1978～79）年にかけて実施された井原線建設に伴う発掘調査をはじめ、30年以上にわたって断続的に発掘調査が行われています。

国道313号道路改良事業に伴う御領遺跡の発掘調査は平成20年から実施し、今年度で5年目の調査になります。前年度までの調査は、御領遺跡の西側及び東側で行われており、今年度も御領遺跡の西端と東端の2か所で調査を行っています。今年度の調査期間は、4月～7月上旬の予定です。

第5次調査



2 既往の調査

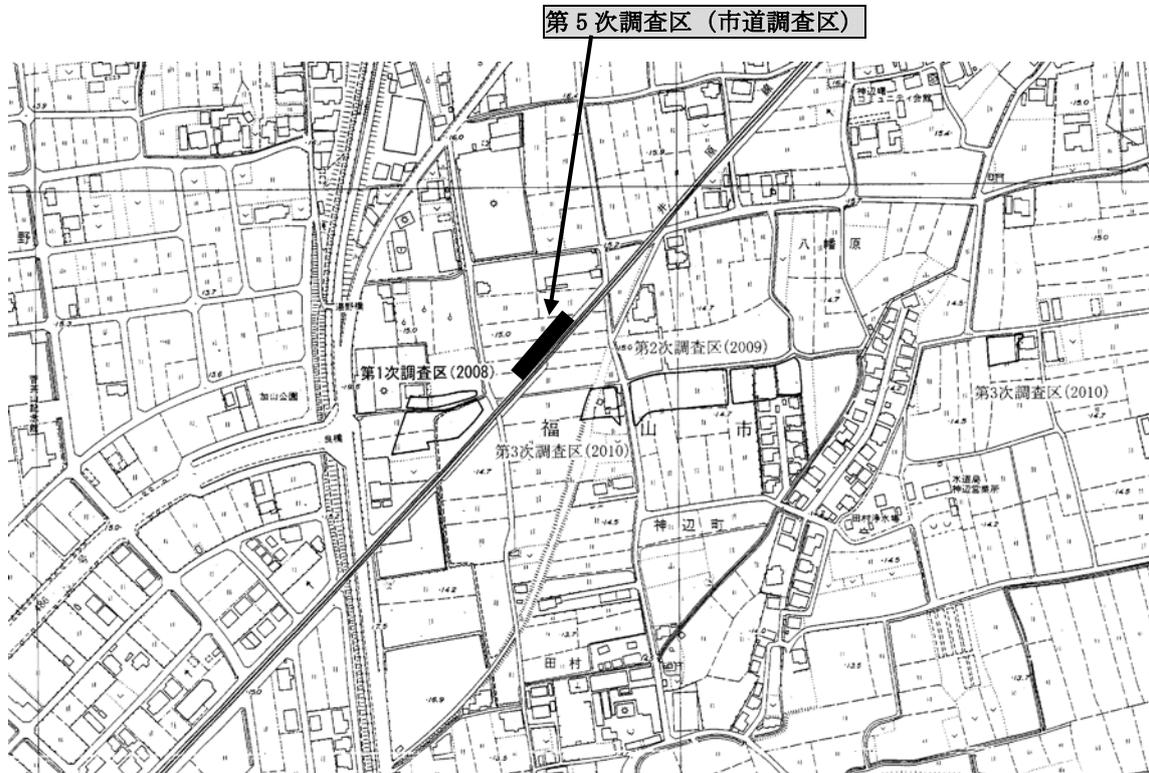
国道 313 号道路改良事業に伴う第 1～4 次調査の成果についてまとめておきます。

第 1 次調査 竪穴住居跡 1・竪穴住居状遺構 6・掘立柱建物跡 4・土坑 3・多数のピット・自然流路など縄文時代後期～古墳時代前半頃の遺構を確認しています。古墳時代の竪穴住居状遺構から多くの高杯や小形の丸底壺・滑石製の双孔円盤・土玉・土製管玉などが出土しており、何らかの祭祀に関わる遺構と推測されます。

第 2 次調査 竪穴住居跡 54・掘立柱建物跡 16・土坑 89・溝状遺構 8・性格不明遺構 13 を確認しています。これらの遺構は縄文時代後期～晩期と弥生時代後期～古墳時代の 2 時期に大きく分かれます。縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡や埋甕を検出しました。弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡や中期後半から後期にかけての大溝を確認しました。

第 3 次調査 溝状遺構 6 と土坑 3 など弥生時代～古墳時代の遺構を確認しています。このうち、第 2 次調査で調査した大溝の続きの溝状遺構も確認したほか、止水施設と考えられる大量の木材や突き刺さった杭が出土した溝状遺構も確認しました。また、井戸と考えられる土坑があります。

第 4 次調査 竪穴住居跡 11・掘立柱建物跡 7・土坑 14・溝状遺構 11・自然流路 1・多数のピットを確認しています。竪穴住居跡は主に弥生時代後期頃と古墳時代後期頃のものです。掘立柱建物跡のうち古代前半頃の 5 棟は調査区の南東寄りです。建物の向きがほぼ東西南北に平行する建物群です。土坑のなかで円形のは、弥生時代から古墳時代の井戸の可能性があり。溝状遺構のなかには弥生時代中期頃のものと弥生時代末～古墳時代初め頃の土器類が多量に出土するものがあります。自然流路は、幅約 15m・検出面からの深さ約 1.3m の規模で、縄文時代～古代前半の遺物が多く出土しています。



△ 第 1～3 次調査区および第 5 次調査区 (市道調査区)

3 今年度の調査

今年度の調査区は、第4次調査区の北東側に隣接する調査区(本線調査区)と第1～3次調査区付近の調査区(市道調査区)の2か所に分かれています。

(1) 本線調査区

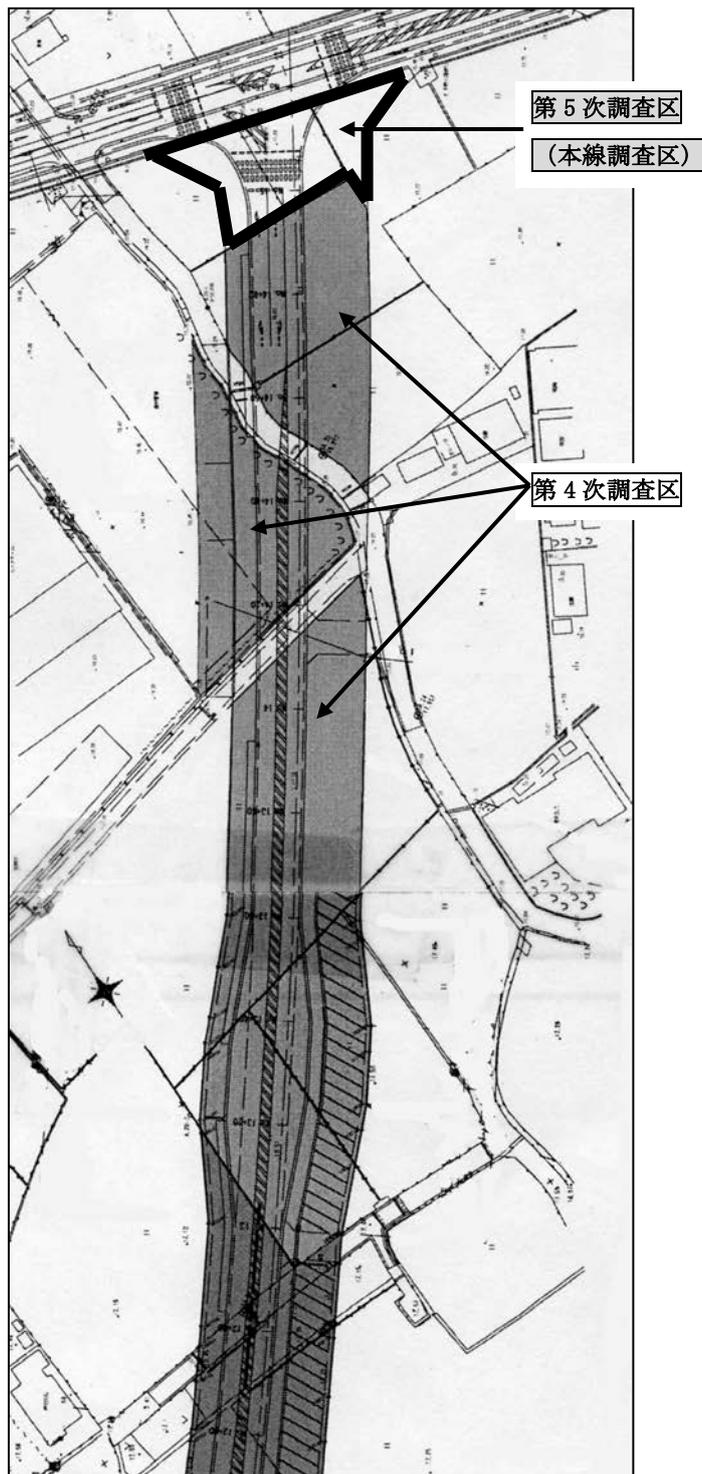
竪穴住居跡2・溝状遺構2のほか多くの土坑やピットを確認しました。

竪穴住居跡のうち、SB1は隅丸方形で5m×5mの大きさ、SB2は方形で4m×4mの大きさです。SB1・2は重なり合っており、その様子からSB1が埋まった後にSB2が作られています。SB1の時期は出土遺物から古墳時代前半と思われる。

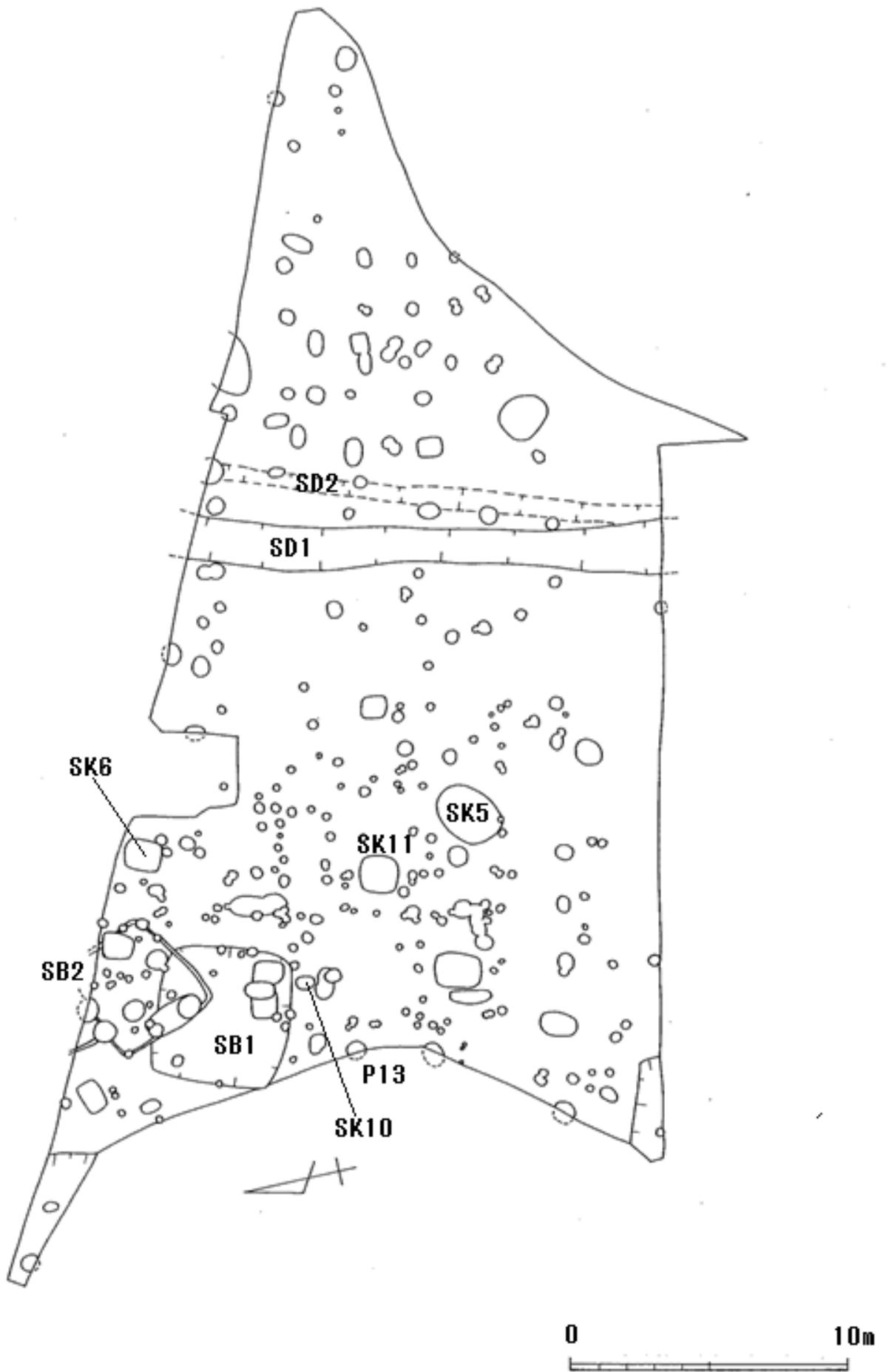
溝状遺構のうちSD1は、幅が約1.5m・深さが約0.3cmで南北方向に延びています。埋土から土師器が多く出土し、古墳時代前半の遺構と思われます。

土坑のうちSK5は長径約2m・深さ約0.5mの楕円形の土坑で、弥生時代中期の土器や炭化物・焼土が出土しています。SK6は一辺1.2m・深さ約0.5mで、下層に炭化物層がある方形の土坑で、古代後半の土器や炭化物が出土しています。

遺物は、弥生土器・土師器・須恵器など弥生時代～古代後半の土器類が多く出土したほか、砥石・石鏃などの石器類が出土しています。



△ 第4次調査区および
第5次調査区(本線調査区)



本線調査区遺構配置略図 (1/200)

(2) 市道調査区

溝状遺構 2 (SD1・2)・土坑 1 のほか多くのピットを確認しています。SD1 は幅 2m 以上, SD2 は幅 1m 程度で東西方向に並行しています。SD1 から弥生時代～古墳時代の遺物が, SD2 から古墳時代の遺物が出土しています。ピットは数十個確認され, そのうち P4 から縄文土器が, P11 から縄文土器と石鏃が出土しています。

遺物は, 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器などの土器類, 石鏃・剥片などの石器類が出土しています。



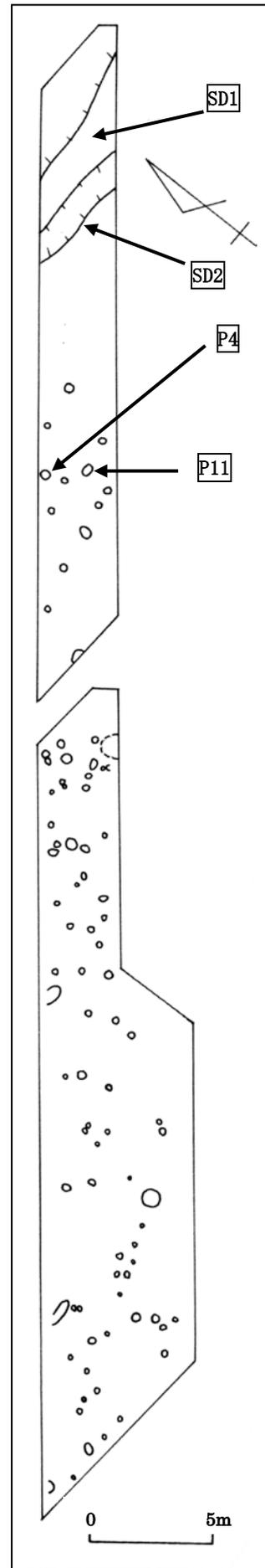
△ 市道調査区 SD1・2 (弥生時代～古墳時代)



△ 市道調査区 P4 遺物出土状況 (縄文時代)



△ 市道調査区 P11 遺物出土状況 (縄文時代)



市道調査区遺構配置略図 (約 1/400)

4 まとめにかえて

今年度は本線調査区と市道調査区の2か所で発掘調査を行いました。

本線調査区では弥生時代～古代の集落跡を確認しました。弥生時代の遺構は、中期の土坑（SK5）があります。南側に隣接する第4次調査区でも弥生時代中期の溝状遺構が確認されており、本線調査区に遺構の分布が広がっています。古墳時代の遺構は、前半の竪穴住居跡（SB1）・溝状遺構（SD1）などがあり、第4次調査区でも古墳時代前半の溝状遺構が確認しています。古代前半の遺構は、円形状の土坑（SK3・4）などがあり、第4次調査区でも掘立柱建物群を確認しています。このように弥生時代～古代前半は、第4次調査区から本調査区にかけて集落が広がっていたと考えられ、本線調査区の遺構は御領遺跡の中でも遺構が集中する遺構群の一部と考えられます。なお、古代後半の遺構は、土坑（SK6）などがありますが、第4次調査区では当該期の遺構は皆無であり、本線調査区で部分的に遺存しているようです。

市道調査区では弥生時代～古墳時代の溝状遺構を確認したほか、縄文土器を出土するピットを2か所検出したことから、ピット群の一部は縄文時代の可能性があります。このことから、市道調査区において建物跡は確認できませんでしたが、第1～3次調査区から市道調査区にかけて縄文時代～古墳時代の集落跡が広がっていたと思われます。



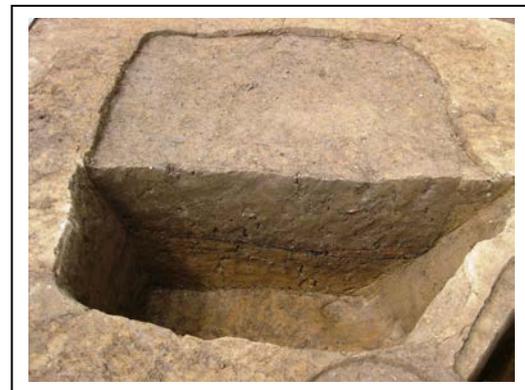
△ 本線調査区 SB1（古墳時代）



△ 本線調査区 SB2（古墳時代）



△ 本線調査区 SK5（弥生時代）



△ 本線調査区 SK6（古代後半）